

# ポルトガル — 基礎データ

2017年3月



aicep Portugal Global

## 目次

基本情報	3
人口と言語	3
政治	3
概要	3
インフラ	4
経済	4
経済構造	4
経済状況と展望	4
国際貿易	6
国際投資	8
ポルトガルと外国の直接投資のフロー (Directional Principle)	8
ポルトガルと外国の直接投資のストック (Directional Principle)	8
観光	10

## はじめに

ポルトガルは、ヨーロッパの西海岸、イベリア半島に位置し、北と東はスペインと国境を接し、西と南は大西洋に面している。さらに、ヨーロッパ大陸にある本土以外に、大西洋上にアゾレス諸島とマデイラ諸島を自治地域として領有している。ポルトガルは地政学上、ヨーロッパ、アメリカ、そしてアフリカをつなぐ極めて戦略的なポジションにあるといえる。

現在の国境線は世界最古のひとつであり、13世紀以降変更されておらず、900年におよぶ歴史は強いアイデンティティを形成するとともに、極めて強い統一と結束を生み出した。

## 人口及び言語

ポルトガルは、約1030万の人口を持ち、全人口に占める経済活動人口は50%に達している。人口は沿岸部に集中しており、人口密度がもっとも高いのが首都のリスボン市とポルト市である。

公用語のポルトガル語は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジア、というほぼ全大陸に広がる2億人以上の話者人口を有し、ポルトガルと様々な国や地域との歴史的・文化的関係をいっそう強いものとする重要な役割を果たしている。

## 政治

ポルトガルの政治体制は、基本的人権、自由、そして権力分立が尊重され、保障された議会制民主主義である。憲法のもと、主権は共和国大統領、共和国議会、政府、そして司法に帰属する。

国家元首は5年毎に実施される直接普通選挙で選ばれる共和国大統領であり、その任期は最長で二期10年に制限されている。現在の国家元首は、2016年1月に選出されたマルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領である。

立法権を有するのは、普通選挙によって選ばれる230名の議員（任期4年）が構成する共和国議会である。

行政権は、首相、大臣、副大臣で構成される政府にあり、現在の首相は2015年11月に就任した社会党党首、アントニオ・コスタ首相である。

ポルトガルの司法制度は、各々独立し、独自の制度と構造を持つ様々な管轄に分けられた裁判所によって担われている。単一の裁判所を持つのは憲法裁判所及び会計監査院であり、司法裁判所、行政裁判所及び租税裁判所は各々最高裁判所の下、分類体系の階層に応じて複数設置されている。さらに、海事裁判所、仲裁裁判所、治安裁判所が存在する。

## 概要

面積	92 212 km <sup>2</sup>
人口 (百万)	10 306 (2016)
生産人口 (千人)	5 178 (2016)
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	111,8 (2016)
国名	ポルトガル共和国
首都	リスボン (都市部人口210万)
州都	アヴェイロ、ベージャ、ブラガ、ブラガンサ、カステロ・ブランコ、コインブラ、エヴォラ、ファロ、フンシャル (マデイラ諸島)、グアルダ、レイリア、ポンタ・デルガーダ (アゾレス諸島)、ポルタレグレ、ポルト、サンタレン、セトウーバル、ヴィアナ・ド・カステロ、ヴィラ・リアル、ヴィゼウ
主な宗教	ローマ・カトリック
言語	ポルトガル語
通貨	ユーロ (100セント単位)
	1ユーロ=200.482エスクードス (1999年1月1日為替相場)
	1ユーロ=1.0614米ドル (2016年平均)
	1ユーロ=1.0643米ドル (2017年2月平均)

出典：国立統計院、ポルトガル銀行



## インフラ

世界経済フォーラム (WEF) が発表した「2016-17年国際競争力レポート」によると、「インフラ全体の質」においてポルトガルは138カ国中第16位に位置付けられた。

**道路網**：ポルトガルは、高速道路、幹線道路、副幹線道路、国道及び地方道などで構成されたヨーロッパで最も発達した道路網を有する国のひとつとされている。2013年、本土の道路網 (国道) の総延長は14,310キロメートルに達し、その20%に当たる2,988キロが高速道路で占められている。

**鉄道網**：総延長2,544キロメートルの鉄道網は、沿岸部を中心に国を南北につなぎ、更にいくつかの支線が沿岸部と内陸部を接続している。鉄道網は人口の多いエリアに集中している。

**空港**：全国に15の空港がある。本土の主要空港であるリスボン空港、ポルト空港及びファロ空港は沿岸部に位置し、3空港とも国際空港として機能している。主要空港へは、世界の主な航空会社が路線を持っている。自治地域のアゾレス諸島及びマデイラ諸島には、諸島間のアクセスのため11つの空港 (アゾレス9空港、マデイラ2空港) が整備されている。ポルトガル空港及び航空航法会社 (ANA-Aeropostos de Portugal) によって管理運営されている空港は世界149地域との間に定期便を持つ約66の航空会社へサービスを提供している。(2016年には、4450万人の空港利用者数を記録し、これは前年同期比より14%の増加である。)

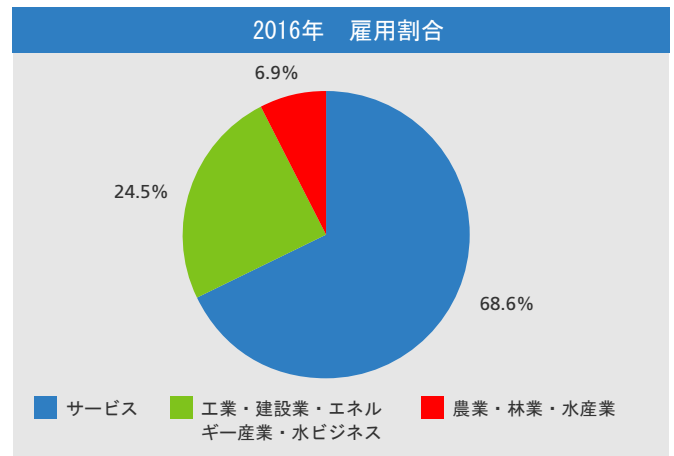
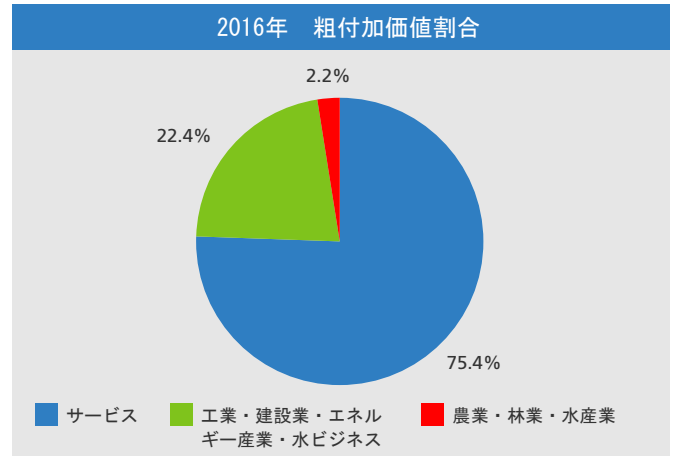
**航路網**：ポルトガル本土には、北部にヴィアナ・ド・カステロ港及びレイションエス港、中部にアヴェイロ港とフィゲイラ・ダ・フォス港、首都圏にセトゥーバル港とリスボン港、アレンテージョ地方にシネス港、そしてアルガルヴェ地方にファロ港とポルティマオン港の9つの主要港がある。さらに、アゾレス自治地域には8港、マデイラ自治地域には3港が整備されている。客船は、本土においてはリスボン港とレイションエス港のみに寄港しており、ほとんどがリスボン港を利用している。ポルトガルの港湾施設が果たしている主な機能は海運であり、取扱量ではシネス港 (2016年において総量の54.5%を占めた) が際立ち、レイションエス (19.5%)、リスボン (10.9%)、セトゥーバル (7.4%)、アヴェイロ (4.8%) がつづいた。

## 経済

### 経済構造

ポルトガルの経済構造の中心は、他のヨーロッパ諸国同様、サービス部門であり、2016年の統計によると、この部門は全就労人口の68.6%の雇用と、粗付加価値の75.4%を生み出している。農業・林業・水産業分野の雇用は6.9%で粗付加価値は2.2%、工業・建設業・エネルギー産業・水ビジネスは雇用24.5%、粗付加価値22.4%である。

この10年の間、サービス部門のいっそうの拡大と多様化が進んだだけでなく、より専門的な分野への移行が起こった。ポルトガルの製造業は大きく変化し、伝統的な製造分野への依存は弱まり、自動車部品製造を含む自動車産業、電子産業、エネルギー産業、製薬業、情報通信関連の新規産業など、技術集約型製造業が重要性を増し、成長をつづけている。



出典：INE-ポルトガル統計院  
注記：GVA (粗付加価値割合)

### 現在の経済状況と今後の展望

2011年5月にEU (欧州連合) 及びIMF (国際通貨基金) との間で合意のもと実施してきた「経済財政支援プログラム (EFAP - Economic and Financial Assistance Programme) の完了を、2014年5月にポルトガル政府は表明した。ポルトガルは、海外からの追加支援を求めることなく、また、国際債務マーケットにおける借款などに頼ることなく、この支援プログラムを完了させた。

三年にわたる「経済財政支援プログラム」を通じ、構造的改革を進めるための施策が様々な分野において実施され、いくつかのマクロ経済的不均衡の是正が進められた。ポルトガル銀行は、「経済財政調整プログラム」の目標が全体的に達成されたのは、ポルトガル経済のいくつかの特徴が寄与したと分析している。それは、対外的実質資金調達能力 (net financing capacity)、一次構造調整 (primary structural adjustment)、継続中の予算強化力 (ongoing budget consolidation)、そして非トレーダブルセクターからトレーダブルセクターへのリソースの移転などであり、こういった特徴が持続的成長につながったと見られる。

注目すべきは、I G C P (ポルトガル国庫及び債務管理機構)によると、ポルトガルは2015年に840万ユーロ、2016年に450万ユーロと、「経済財政支援プログラム (E F A P)」に関わるIMFからの融資の繰り上げ返済を実施していることである。

2016年4月、ポルトガル政府は「国家改革計画 (P N R)」と「安定化五カ年計画 (2016-2020年)」を発表した。中期的戦略となる「国家改革計画 (P N R)」は、投資を促進することで財政のサステナビリティを確保するため、「質の高い労働力の育成」、「経済分野のイノベーションの促進」、「国土の安定化及び価値上昇」、「政府の近代化促進」、「企業のキャピタリゼーション」、「社会的統合及び平等性の向上」を柱としている。

I N E (国立統計院)によると、GDPの実質成長率は2014年の0.9%、2015年の1.6%と上昇し、2016年も1.4%と堅調を維持している。しかし、成長率への内需の貢献度は約1.5%と前年より低くなり、その主な要因は国内固定資本形成の大幅な減少 (2015年の4.5%から2016年は-0.3%と前年比マイナス)と、民間消費が前年比2.5%の微減となったことであった。半面、政府消費は2.3%増加し、輸出入の実質増加率は輸出・輸入とも4.4%となった。

ポルトガル銀行の最新の報告によると、経済の回復基調は今後も段階的につづき、GDP成長率は2017年1.8%、2018年1.7%となると予想されており、欧州連合がポルトガルに対して予測している数値を上回り (1.6%及び1.5%)、ユーロ圏に対して予測している数値に近い (1.6%及び1.8%)。ポルトガル銀行の分析によると、けん引力となるのが物品やサービスの輸出の増加 (2017年6%、2018年4.8%)であり、この分野が経済活動全般を下支えするとしている。企業による投資拡大にともなう国内固定資産形成の著しい増加 (2017年2.1%、

2018年4.8%)も見込まれ、この点もプラス要因になると分析されている。その一方で、民間消費は減速傾向を示し (2017年2.1%、2018年1.4%)、政府消費の増加は抑えられる (2017年0.2%、2018年0.5%)としている。

2017年を通して物品やサービスの輸出は順調に推移し、中でも、ポルトガル経済再生に最も貢献している観光分野の経済活動のダイナミズムはいっそう高まると予測されている。

ポルトガル銀行によると、GDPにおける輸出全体の比重はますます高まり、2019年までには46% (2016年時点で40%)になると予測されている。ポルトガル経済の融資能力も堅調に推移し、2017-18年期の経常収支・資本収支はともにGDPの1%程度の黒字が見込まれている。

近年、失業率は減少傾向にあり、2016年には労働力人口の11.1%に達していたが、今後2017年9.9%、2018年9%と低下していくと予想されている。雇用の機会も同様に増加するが、2017・18年は増加が少なからず鈍化すると見込まれている。

財政状況は大幅に改善し、2016年の財政赤字はGDPの2.1%に留まった。1999年にユーロ圏に加入して以来、初めて目標値として定めていた3%を下回った。欧州委員会の試算によると、2017年 (2%)、2018年 (2.2%)と同程度の水準が維持されると予測されている。GDPにおけるウェイトはここ2年間に減少すると考えられている (2017年128.9%、2018年127.1%)。

注目すべきは、世界銀行が「Doing Business 2017」誌において「Ease of Doing Business (ビジネスのし易さ)」ランキングで190カ国中25位、EUの中で12位、南欧最高位にランキングされていることである。

<sup>1</sup> ポルトガル銀行「2017-19年ポルトガル経済予想 (2017年3月29日)」  
<sup>2</sup> 欧州連合「Economic European Forecast - 2017冬」 (2017年2月)

経済指標		2013	2014	2015	2016	2017 <sup>a</sup>	2018 <sup>a</sup>
市場価格でのGDP	百万ユーロ	170 269	173 079	179 540	185 035	190 295	195 882
	実質的变化	-1.1	0.9	1.6	1.4	1.8	1.7
	百万米ドル	226 143	229 995	199 222	204 761	203 178	209 261
一人当たり (PPS)	EU28カ国を100とする	76.6	76.8	76.8	76.9	77.3	77.6
個人消費	百万ユーロ	111 114	114 060	117 822	121 783	125 567	129 018
個人消費	実質的变化	-1.2	2.3	2.6	2.3	2.1	1.4
公共消費	百万ユーロ	32 501	32 206	32 667	33 547	34 038	34 619
公共消費	実質的变化	-2.0	-0.5	0.8	0.8	0.2	0.5
投資/国内総固定資本形成 (GFCF)	百万ユーロ	25 122	25 993	27 417	27 400	28 567	30 112
	GDP%	14.8	15.0	15.3	14.8	15.0	15.4
	実質的变化	-5.1	2.3	4.5	-0.3	6.8	5.0
国内総固定資本形成 (建設部門を除く)	GDP%	7.0	7.5	7.7	7.5	n.a	n.a
	実質的变化	4.1	8.7	4.9	1.7	n.a	n.a
人口	千人	10 457	10 401	10 358	10 306	10 268	10 223
雇用	千人	4 450	4 513	4 576	4 650	4 671	4 698
失業	千人	855	726	647	573	513	475
労働力率 (労働力化率)	人口中15歳以上%	59.3	58.8	58.6	58.5	n.a	n.a
ポルトガルの失業率	労働力人口%	16.2	13.9	12.4	11.1	9.9	9.0
公共部門収支	GDP%	-4.8	-7.2	-4.4	-2.1	-2.0	-2.2
公債	GDP%	129.0	130.6	129.0	130.4	128.9	127.1
経常収支	10億ユーロ	2.7	0.1	0.1	1.6	1.2	1.4
経常収支	GDP%	1.6	0.1	0.1	0.8	0.6	0.7
ポルトガルの消費者物価指数	年間変動率 (平均)	0.4	-0.2	0.5	0.6	1.3	1.4
ユーロ圏の消費者物価指数	年間変動率 (平均)	1.3	0.4	0.0	0.2	1.7	1.4

出典: I N E - 国立統計院、ポルトガル銀行、財務省、欧州委員会、Eurostat  
注記: (a) 予測: ポルトガル銀行、欧州委員会 (European Economic Forecast-Winter 2017, Ameco)  
ユーロ/米ドル 平均為替レート ポルトガル銀行 n.a. 該当なし



## 貿易

ポルトガル銀行が発表した最近5年のデータによると、年間平均ペースでの商品とサービスの輸出の増加率は4.2%となり、輸入は2.8%に留まった。2016年には、商品とサービスの輸出は前年比プラス2.0%、輸入はプラス0.8%と増加し、カバー率は105.7%に達した。輸出入バランスは2012年から2016年の期はプラスに転じた。

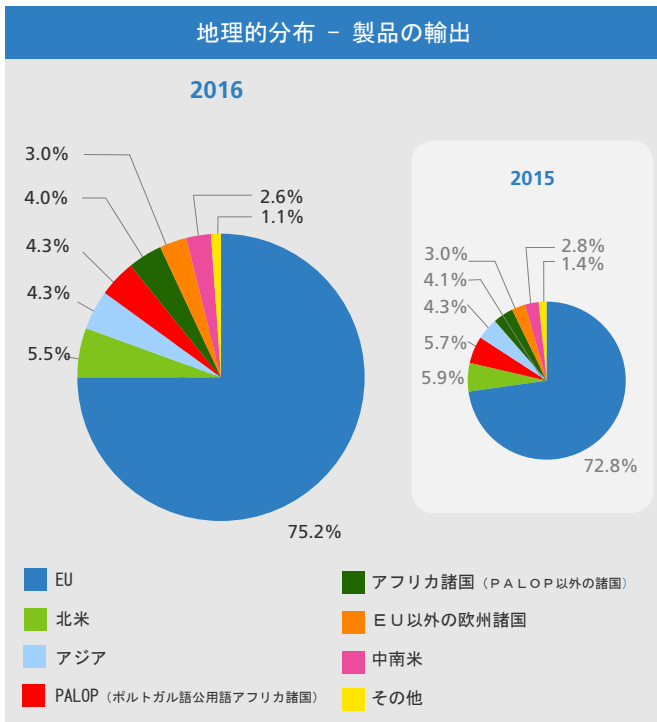
商品輸出に限った場合、INE国立統計院のデータによると、2016年の輸出は前年同比0.9%、そして輸入は1.2%増加した。商品分野に限って見ると2016年の貿易収支は引き続き赤字となったが、カバー率は82.4%であった。2016年の貿易を詳細に見ると、輸出においては「機械及び機器」が全体の15.4%と最も多く、次いで「車両及び他の輸送用機材」(11.3%)、プラスチック及びゴム(7.5%)、非金属(7.3%)、農産物(6.8%)、が主要品目となっている。2016年の輸出において、同5品目がポルトガルの輸出全体の48.3%を担った(前年2015年は47.4%)。

2016年の商品の主な輸出先は、EUが全体の75.2%を担って最大となり、次いでアフリカ8.3%(PALOP-ポルトガル語公用語とするアフリカ諸国4.3%、その他のアフリカ諸国4%)、北米5.5%、アジア4.3%、EU以外の欧州諸国3%、中南米諸国2.6%となった。前年と比較すると、EUは増加してアジアは前年同様であったが、北米、

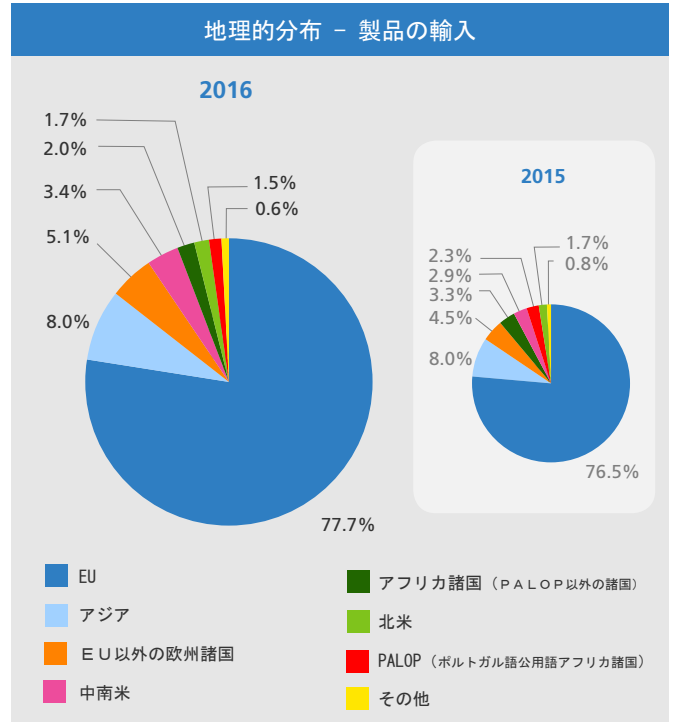
PALOP、中南米への輸出は減少した。国別にみた場合、2016年の主な輸出先はスペイン、フランス、ドイツ、英国、米国となり、この五カ国が輸出総額の約62.3%を占めるに至った。2015年と比較すると、スペイン、フランスと英国は増加したが、ドイツと米国は減少した。

2014年と比べると主要輸出先国の順位は米国がランキング及び比率を上げたのに対し、アンゴラが低下させた。米国のランキング(比率)は6位(4.4%)から5位(5.2%)となり、アンゴラは4位(6.6%)から6位(4.2%)となった。

輸入に関しては、機械及び機器、車両及び他の輸送用機材、農産物、化学品、鉱物性燃料が全体の62.3%を占め、2016年の輸入品目の上位を占めた(2015年は62.6%)。同期の輸入を地域別に見た場合、輸入全体の77.7%がEUからで、次いでアジア8%、EU以外の欧州諸国5.1%、アフリカ3.5%(PALOP1.5%及びその他のアフリカ諸国2%)、中南米諸国3.4%、北米1.7%となった。国別には、スペイン、ドイツ、フランス、イタリア、オランダが引きつづき輸入全体の64.6%を担った。2016年で特徴的なのは、ドイツとフランスからの輸入増加であった。



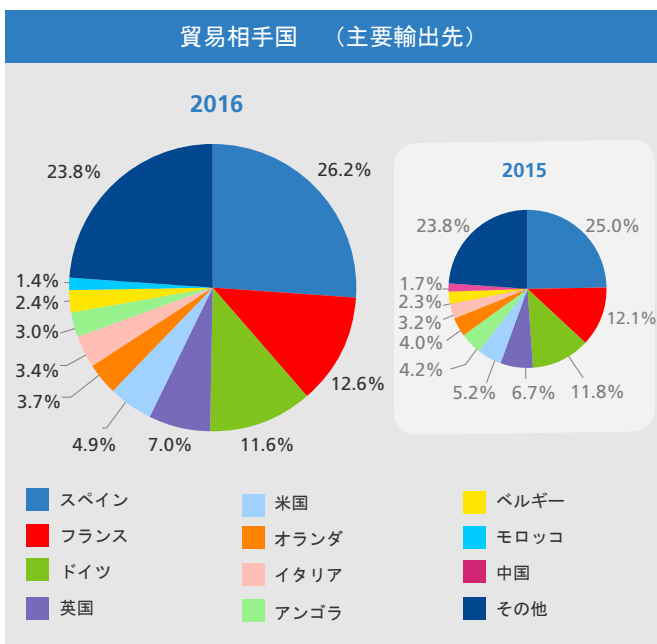
出典: INE - 国立統計院  
 注記: 2015年は暫定値、2016年は試算値



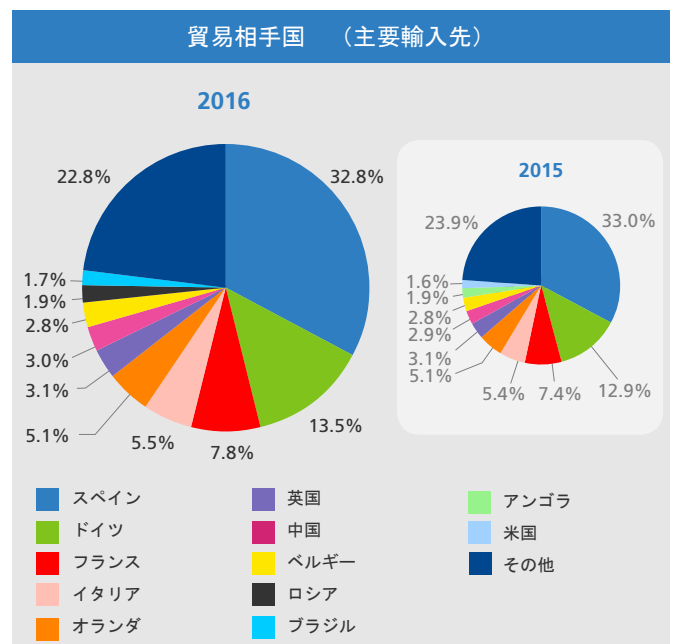
出典: INE - 国立統計院  
 注記: 2015年は暫定値、2016年は試算値

ポルトガルの貿易		2012	2013	2014	2015	2016	変動率 2016/2012 <sup>c</sup>	変動率 2016/2015 <sup>d</sup>
<b>製品及びサービス分野の貿易 (a)</b>								
輸出 (FOB)	百万ユーロ	64 380	68 610	70 718	74 294	75 779	4.2	2.0
輸入 (FOB)	百万ユーロ	64 151	65 414	68 827	71 128	71 714	2.8	0.8
収支 (FOB)	百万ユーロ	229	3 196	1 891	3 165	4 065	--	--
	GDP % <sup>e</sup>	-0.5	1.0	0.2	0.7	1.2	--	--
<b>製品分野の貿易 (b)</b>								
輸出 (FOB)	百万ユーロ	45 213	47 303	48 054	49 826	50 290	2.7	0.9
輸入 (FOB)	百万ユーロ	56 374	57 013	59 032	60 310	61 055	2.0	1.2
収支 (FOB)	百万ユーロ	-11 161	-9 710	-10 978	-10 485	-10 766	--	--
	GDP % <sup>e</sup>	-5.0	-4.0	-4.7	-4.3	-4.1	--	--

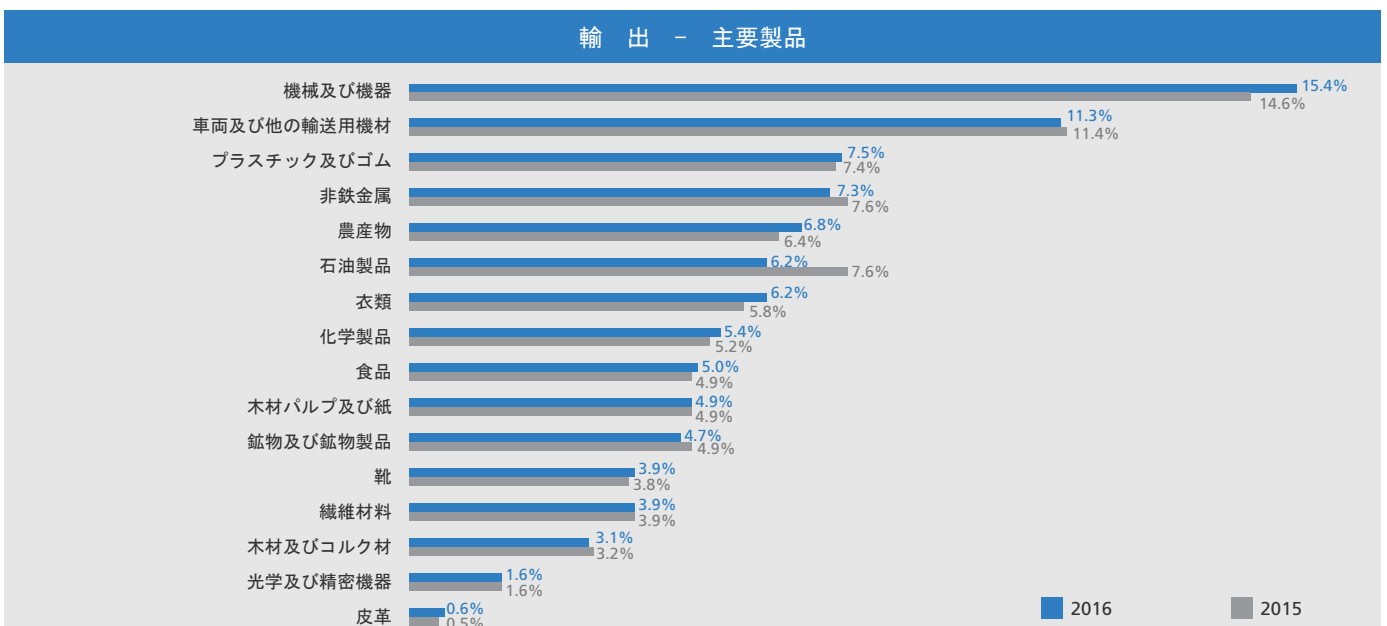
出典: a) ポルトガル銀行 (製品及びサービス分野の貿易); b) I NE - 国立統計院 (製品分野の貿易)  
c) 2012年から16年までの5年間の年間成長率の平均算出値; d) 2015~16年間の同期変動率  
e) 国民会計からのFOBでの輸出入データ  
2015年は暫定値、2016年は試算値



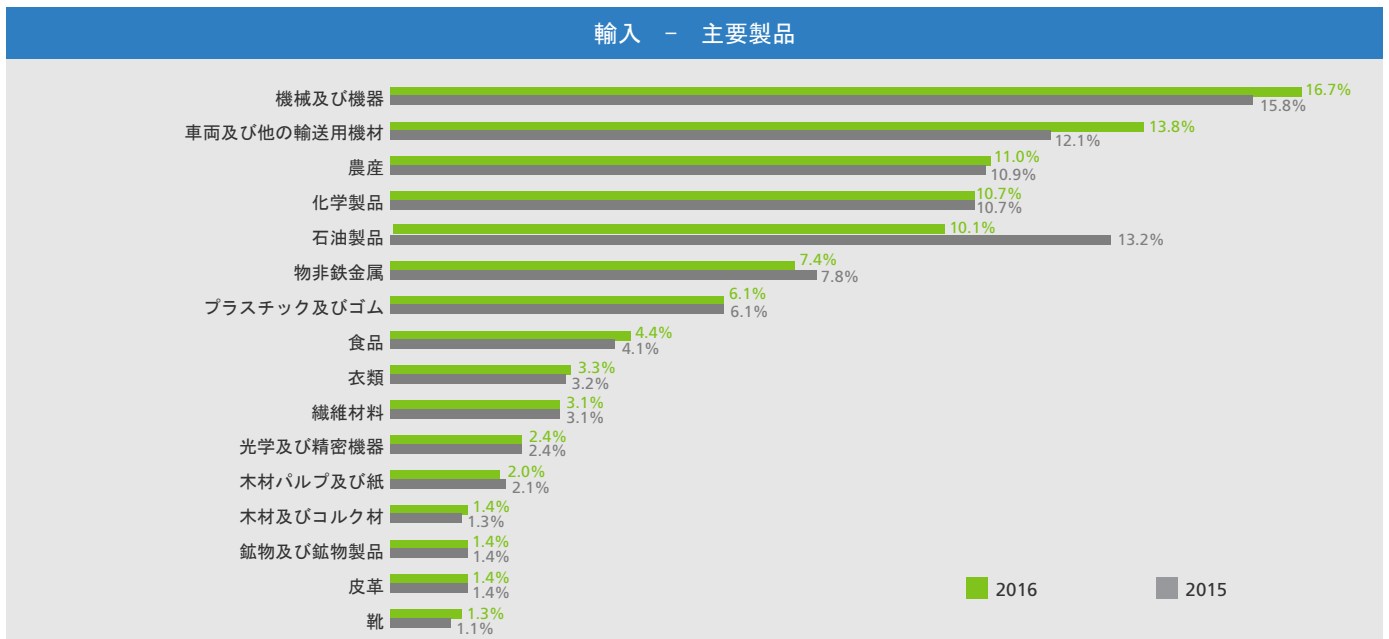
出典: I NE - 国立統計院  
注記: 2015年は暫定値、2016年は試算値



出典: I NE - 国立統計院  
注記: 2015年は暫定値、2016年は試算値



出典: I NE - 国立統計院  
注記: 2015年は暫定値、2016年は試算値



出典：INE - 国立統計院  
注記：2015年は暫定値、2016年は試算値

## 海外投資

### ポルトガルと外国の直接投資のフロー (Directional Principle)

Directional Principle計上原則にもとづくポルトガル銀行のデータによると、2016年の対内直接投資（海外からポルトガルへの直接投資）の総額は2015年に対して12.3%減の55億ユーロに達した。最近5年のデータを見ると、最高値を記録したのは2012年の69億ユーロ及び2015年の63億ユーロであった。

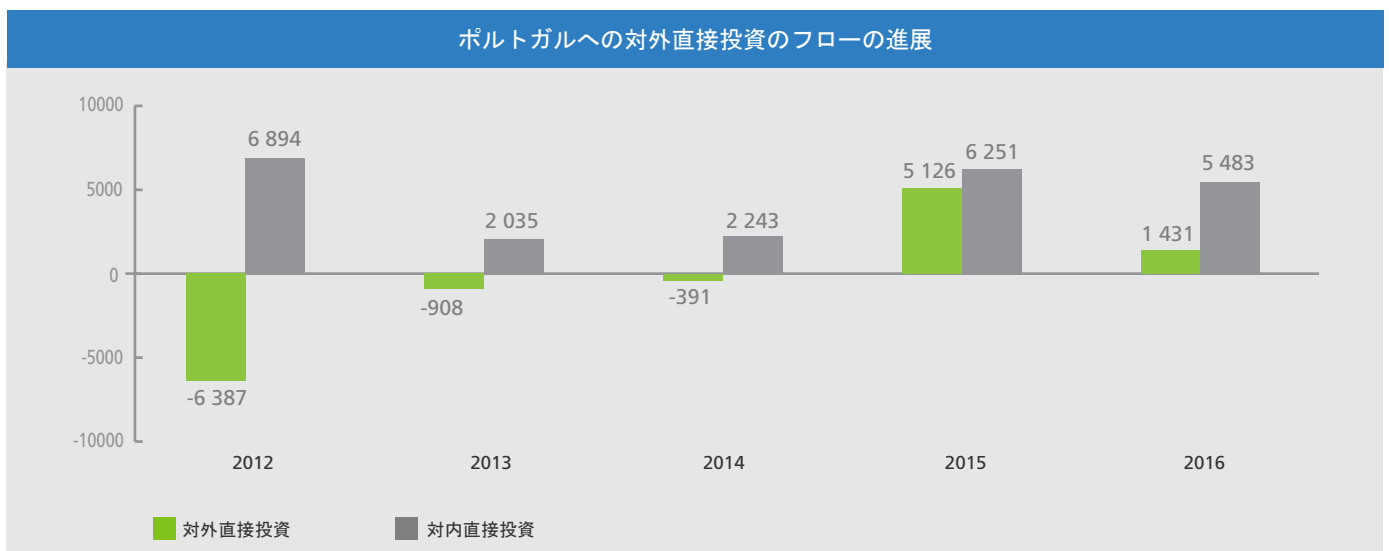
2016年の対外直接投資（ポルトガルから海外への直接投資）の総額は2015年に対して72.1%減の14億ユーロ

口となった。2012年から2016年の間のデータを見ると、最高値が記録されたのは2015年の約51億ユーロであった。

### ポルトガルと外国の直接投資のストック (Directional Principle)

2016年12月末時点における海外からポルトガルへの直接投資のストックは2015年同月比4.4%増の1121億ユーロを記録した。

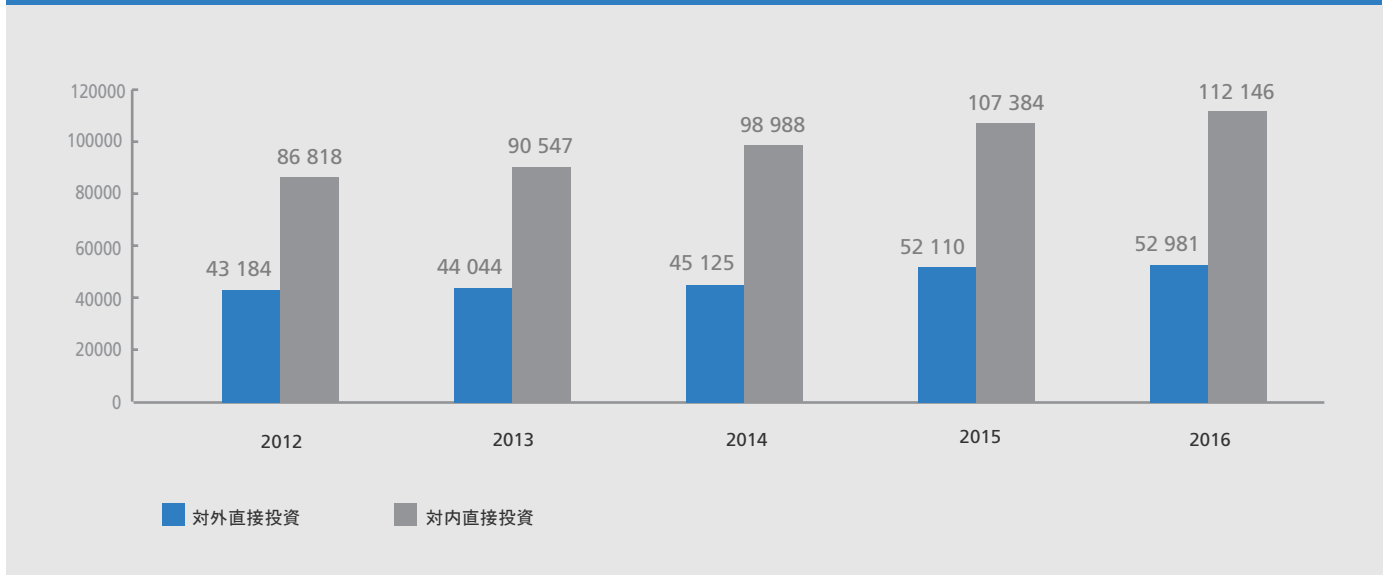
一方、ポルトガルから海外への直接投資のストックは、2016年12月時点で前年同月比1.7%増の530億ユーロに達した。



出典：ポルトガル銀行  
単位：百万ユーロ（実質的変動・純額）  
：Directional Principleは、直接投資の方向またはその影響を反映している。



### ポルトガル対外直接投資のストックの進展



出典：ポルトガル銀行  
単位：百万ユーロ（期末時点）  
:Directional Principleは、直接投資の方向またはその影響を反映している。

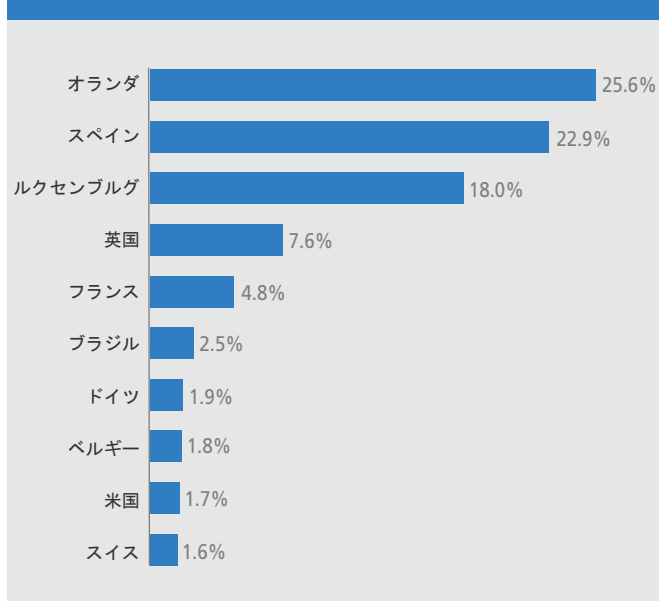
### 国別対内直接投資のストック (Directional Principle)

2016年12月における海外からのポルトガルへの直接投資のうち、87.5%がEU諸国からであった。国別にみた場合、オランダとスペインが、それぞれ全体の25.6%、22.9%を占め、ルクセンブルグ18%、英国7.6%、そしてフランス4.8%となった。EU圏外では、ブラジルが2.5%、次いで米国1.7%、スイスと中国が同比率で全体の1.6%、そしてアンゴラが1.2%を占め、2016年で全体の12.5%を占めるに至った。

### 国別対外直接投資のストック (Directional Principle)

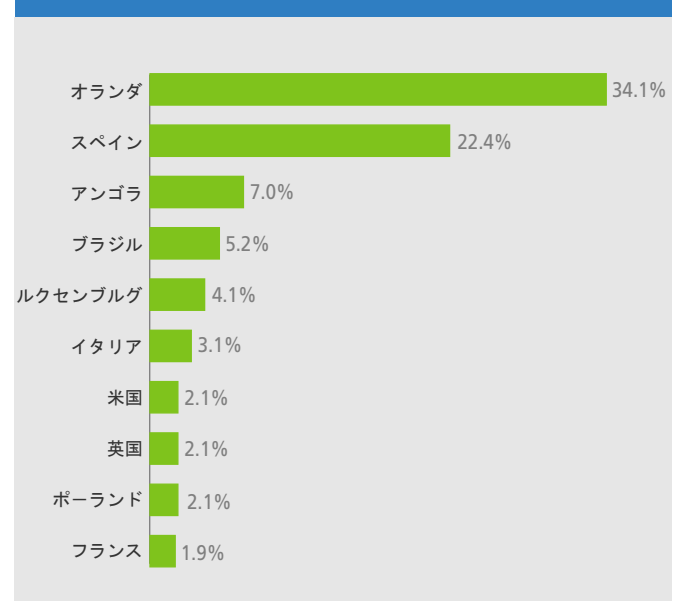
2016年において、ポルトガルからの主な投資先はEUであり、その比率は全体の74.3%に達した。2016年統計データを国別に見ると、EU域内では、オランダの34.1%とスペインの22.4%が大きく、次いでルクセンブルグが4.1%となった。EU圏外では、アンゴラ7%、ブラジル5.2%、米国2.1%、そしてモザンビーク1.7%が上位国となり、EU圏外の国に対するポルトガルの直接投資は全体の25.7%を占めた。

#### 国別ポルトガルへの直接投資 (2016)



出典：ポルトガル銀行

#### 国別ポルトガルからの直接投資 (2016)



出典：ポルトガル銀行

## 観光

2016年、ポルトガルの観光分野のトレードバランスは前年比12.7%もの伸びを記録し、88億ユーロに達した。

2012～16年の5年間、ポルトガルの観光関連収入は持続的に増加し、年平均10.2%の伸びを示した。2016年には127億ユーロ（前年比10.7%増）に達する勢いで、ポルトガルの商品及びサービスの総輸出額の約16.7%を占めるに至った。

2016年、収入面から見て、ポルトガルへの観光客数が多かった上位国は、フランス（全体の18%）、英国（17.9%）、スペイン（12.6%）、ドイツ（11.7%）、米国（4.7%）であり、この五カ国だけで全体の65.1%に達した。

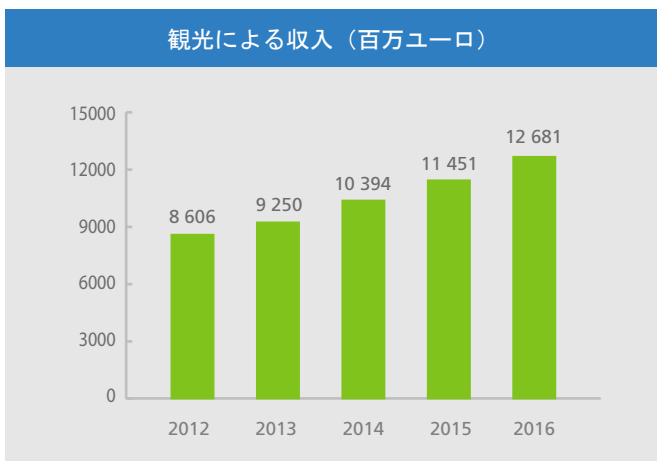
これらの国からの観光客数の伸びは著しい増加を記録した。特筆すべきは前年比17.6%増のドイツ、フランス13.5%、英国12.9%、スペイン12.6%、米国11.9%などの伸びであった。伸び率は大きくはないが、

前年比6.4%増のブラジル（観光分野の収入で第7位）と2.8%増のスイス（第9位）が目立った。

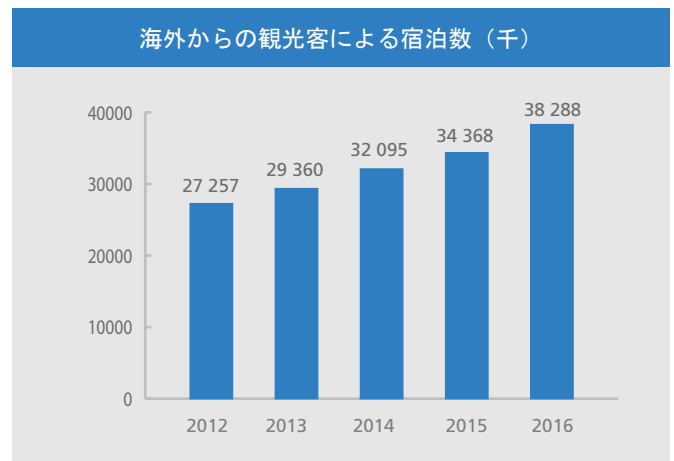
外国客の宿泊数に関して見ると、過去5年間賢調な伸びを示し、2016年の宿泊数は前年比11.4%増の3830万に達した。

2016年、ホテルの宿泊日数における外国人観光客の占有率に至っては、わずか五カ国（英国、ドイツ、スペイン、フランス、オランダ）からの観光客が全体の64.5%を占めるに至った。国別で2015年と比べて伸びが顕著だったのが、フランス（18%）、オランダ（13.4%）、英国（9.8%）、ドイツ（9.8%）、そしてスペイン（8.2%）となった。米国とブラジルも注目に値する伸びを示し、各々前年比20.8%、13.7%増加し、宿泊数全体から見ても3.1%と3.9%を記録した。

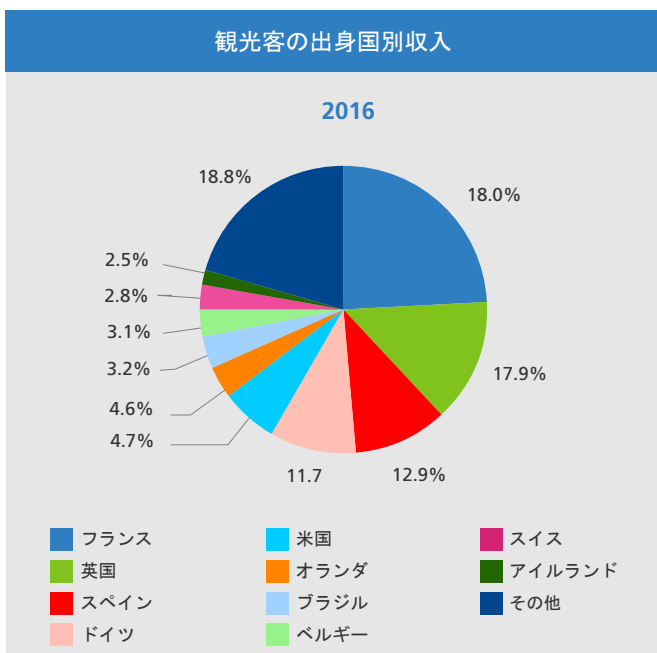
国連世界観光機関（UNWTO）が2017年1月に発表した「世界観光指標（World Tourism Barometer）」によると、観光収入の面では、2015年、ポルトガルは世界第26位（EU諸国内で9位）に位置し、観光客受け入れマーケットとしての順位は第34位となり、同年の観光客数は1010万に達した。



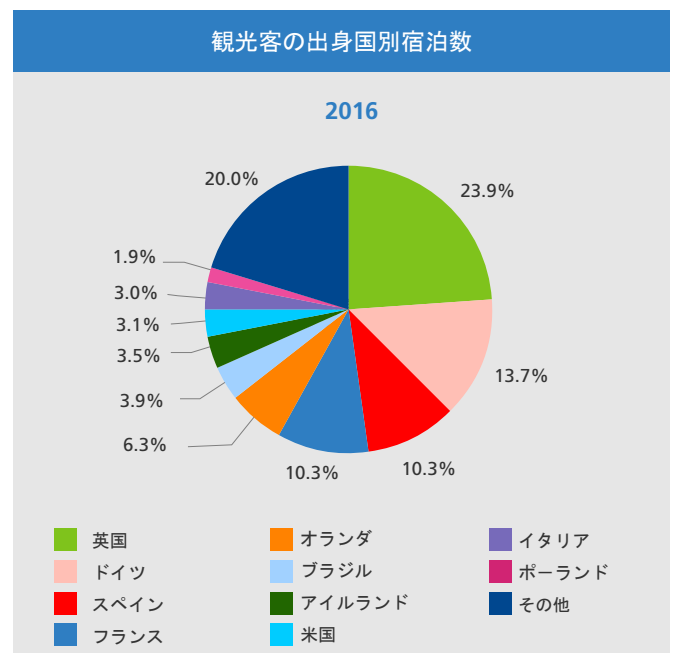
出典：ポルトガル銀行



出典：INE - ポルトガル統計院



出典：ポルトガル銀行



出典：INE-ポルトガル統計院

## 競争上の優位性

### ● + マーケット

ヨーロッパ諸国5億人、ポルトガルを母語とする国々2億5千万人のマーケットへの開かれたゲートウェイ

### ● 高度なテクノロジー

テクノロジーサービスを提供するリーディングカントリー

### ● インフラストラクチャー

インフラ全体の品質では世界138ヵ国中第22位にポジション

### ● スキル

ポルトガル人の61%が母国語以外の言語を少なくともひとつは話せる

### ● クオリティ・オブ・ライフ

ポルトガルは投資先として有望な国というだけでなく、生活し、余暇を楽しむのにも最適な国である。治安は良く、太陽に恵まれ、固有の自然を持ち、豊富なレジャーや文化施設、高度な医療サービスを提供できる施設を有している。

### ● タレント

ビジネス分野に最適な、高度な教育を受け、強く、柔軟で、献身的、そして高い

### ● ロケーション

重要な市場へアクセスできる恵まれたロケーション

### ● 海外投資実績

高い顧客満足度



aicep Portugal Global  
Trade and Investment Agency